

見えていないものを、見えるようにします

Codexが言うファイルの名前と、あなたの画面の見え方をそろえます

Codexは、ファイルの名前を 「後ろまで」付けて言ってきます。

第2章で「自己紹介のファイルを作って」と頼みます。その返事に出てくるファイルの名前には、点から後ろまで付いています。

ところが、あなたの画面はこう見えています

Codexの返事

- jikoshoukai.md を作りました
- 後ろまで付いている

あなたの画面

- jikoshoukai
- 後ろが隠されている

**この2つが同じものだと気づけないと、
そこで止まります。**

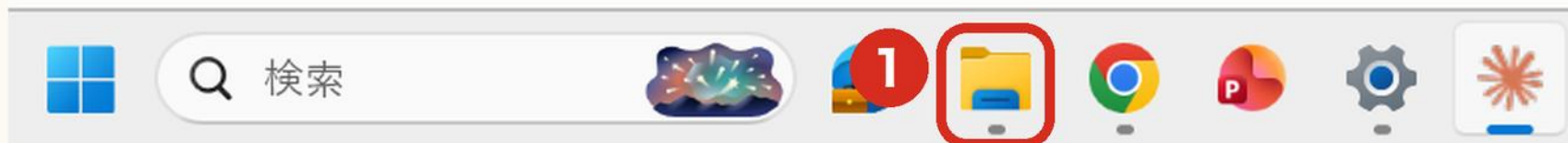
つまずきポイント

いま、あなたの画面には「見えていないもの」があります

ファイルの名前の後ろに、本当はもう少し文字が付いています。初めからそれを隠す設定になっているので、見えていないだけです。まずこれを見えるようにします。

1 画面の下にある、黄色いフォルダのアイコンを押します

これがパソコンの中の箱と紙を見て回るための画面です。エクスプローラー（探検する人、という意味）と呼びます。この先ずっと使う画面なので、1-3であらためて名前ごと説明します。

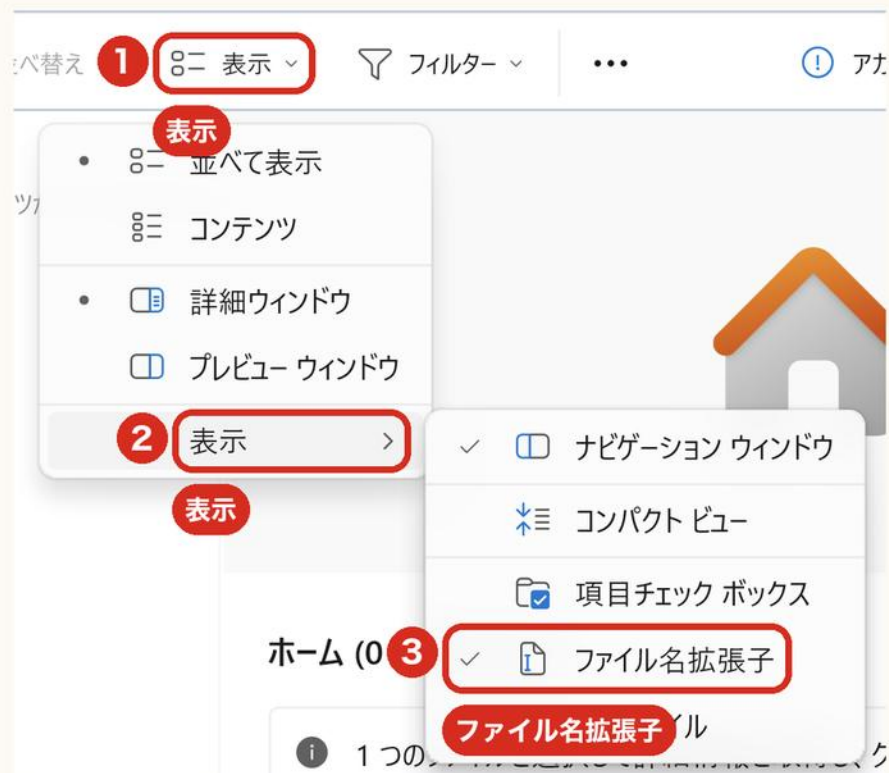


画面いちばん下の帯の中にある、黄色いフォルダのアイコンです

2

開いた画面の、上にある「表示」から進みます

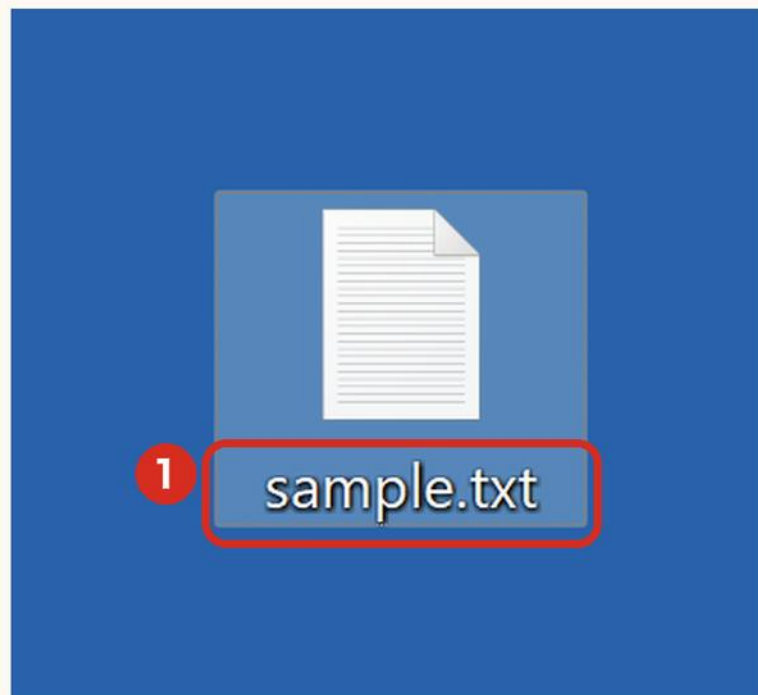
1回設定すれば、ずっとこのままです。毎回やる必要はありません。



「表示」→「表示」→「ファイル名拡張子（かくちょうし）」の順に選びま

設定できると、こう変わります

ファイルの名前の後ろに、点と数文字が出てきました。これが今まで隠れていた部分です。



名前の後ろに「.txt」が出てきました

補足 — Macをお使いの方

Macは Finder（ファインダー）の設定から変えます

Finder は、Windowsのエクスプローラーにあたる、パソコンの中を見る画面です。Finderを開いて、画面いちばん上の「Finder」メニュー → 設定 → 詳細。いちばん上にチェックを入れます。やることはWindowsと同じです。



「詳細」を開いて、いちばん上にチェックを入れます

専門用語

拡張子

Extension (かくちょうし)

ファイル名の後ろに付く、点と数文字のこと。そのファイルが何の種類かを表す名札です。.txt はメモ帳の文書、.xlsx は Excel の表、.md は Codex がよく作る文書、という具合です。

これが見えていないと、写真なのか書類なのか区別が付きません。Codexに頼むときも「どの種類か」で話が早くなります。

つまずきポイント

ただし、勝手に書き換えしないでください

名札を変えても中身は変わりません。「.txt」を「.xlsx」に書き換えても、Excelでは開けません。名札と中身が食い違って、開けなくなるだけです。名前を変えるときは、点より前だけにしてください。

| 見えるようになると、何が変わるか

- 同じ名前のファイルでも、種類の違いが分かります
- 「開けない」と言われたとき、原因に気づけます
- Codexに頼むときに、こちらの言葉が正確になります

この回で残るもの

拡張子が見える設定になりました。

一度やれば、ずっとこのままです。以降の章はこの状態を前提に進みます。